

高崎高校同窓会報

2012

No.46

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-324-0074

平成24年11月30日

史上最多!来校者13,000人の翠巒祭



あれから60年（指月庭の変遷）

今から60年前の昭和27（一九五二）年、前年の火災で消失した校舎の復旧工事が竣工すると共に「指月庭」も完成した。この「指月庭」のある一角は、敗戦までは奉安殿（教育勅語と御真影（昭和天皇ご夫妻の写真）の収納庫）と大麻奉斎殿（伊勢神宮を勧請した神社）が置かれ、来校者はこれに必ず最敬礼をして校舎に向かわなくてはならない神聖な場所だったが、敗戦後はこれらが撤去され雑木が生い茂っていた。

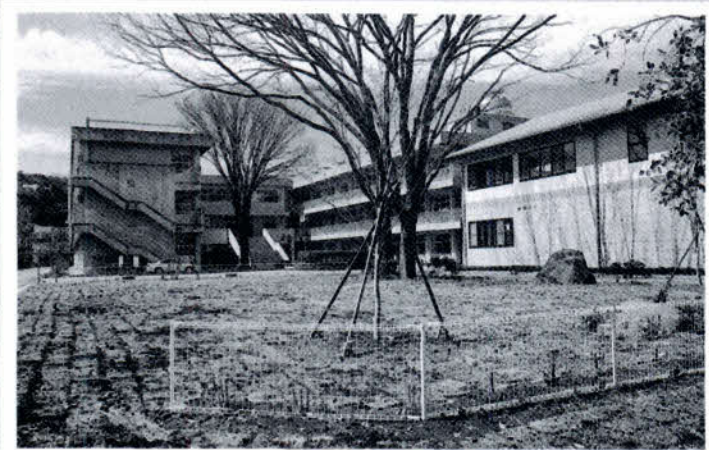
この荒れていた状態は、校舎復旧工事にあわせて井上房一朗氏（15期）の指導で、27年初夏にはギリシャの列柱風のパーゴラにバラがからまる洋式庭園に生まれ変わった。バラは奉安殿跡地だけでなく、校舎南側一帯に咲き乱れ、季節には「バラ見の会」が催されるなど高崎高校の評判を高めた。当時環境整備に配慮できる学校は全国的にもほとんどなく、この頃講演のため来校した旺文社（当時受験出版界のガリバー的存在）社長の赤尾好夫氏は「蛍雪時代」29年8月号の巻頭言で「バラの咲く学園」と称え、また、新校歌制定にあたり草野心平氏は「バラの香匂う学び舎」と詠い、バラは高崎高校の象徴ともい



奉安殿と大麻奉斎殿



往事の指月庭



芝生となった指月庭



復活時の指月庭

えるようになった。しかし、時が経ち井上氏の足も遠のき、管理も行き届かなくなり、次第に往事の面影を失い、パーゴラも老朽化して倒壊のおそれが生じた。このため創立百周年記念事業での翠巒会館建設に伴う整備事業により取り壊されて、象徴ともいえるべき「指月庭」のバラは姿を消してしまった。

ところが、各方面から、校歌に詠み込まれている「指月庭」のバラの消滅を惜しみ、その復活を望む声が寄せられたため、同窓会が学校関係者に呼びかけて復活について協議し、同窓会・教育後援会・PTAの三団体で造成・管理費を分担することで復活を決定し、平成14（二〇〇二）年浜名光彦氏（55期）の設計により、「指月庭」創設時の雰囲気を保ちつつも新しい感覚のバラの園が復活した。



「蛍雪時代」の巻頭言

ご挨拶

“日本の将来”に高高同窓生の力を。



高崎高等学校同窓会長(57期)

佐藤 和徳

高高は、甲子園出場の熱狂が鎮静化され、徐々に常態を取り戻しつつあります。多大な浄財が同窓諸氏のお力添えで集まり、その剰余金の使途について論議を経て、屋外運動部の為の室内練習場建設に集約されてきました。

初夏の翠巒祭の特別講演で、フラッ

シユメモリーを発明した外岡富士雄博士(61期、東北大名誉教授)のお話を拝聴する機会を得ました。

エジソンが人類に利便性と幸福をもたらせた様に、更に研究開発を進めて“ものづくり日本”“勤勉日本”の経済性を他国に負けないように更にアップさせるという気迫を感じました。営業セールスまで経験された博士ならではの発想は大変な刺激となりました。

最近“想定外”なる言辞をよく耳にします。災難も、戦争も、医師にとっての患家の疾病のほとんども想定外であります。想定外だから対応できなかったという言い訳はあまり聞きたくないものです。

ポピュリズムと民意に関して、確かにマスメディアの煽動、負担増を避けたい気持ち、耳障りのよさ、力強く簡

潔なアジテーションなどに踊らされることはあります。正しい事を言っても選挙の得票に必ずしもつながらない事も往々にしてありますが、民意を舐めてはなりません。日本における新自由主義経済、T.P.P. などについて論議あって然るべきです。

領海と排他的経済水域(E.E.Z.)について、200海里水域の重複は“中間線論”で、又、大陸棚の末端まですべての海域をEEZとすることより発した“大陸棚自然延長論”をも冷静に分析して、激することなく毅然とした対応が求められます。

高高同窓生の多彩性は、教育問題、食料問題、エネルギー問題、原発事故による低線量内部被曝問題などまで、広範囲な活動に亘るために、その意見の整理・集約よりも、ただただ眼を瞪る思いであります。



高崎高等学校校長

羽鳥 進一

同窓会並びに会員の皆様には、平素から本校の教育活動に対する暖かいご理解とご支援・ご協力をいただいております。お陰様をもちまして教育活動全般に確実に成果を上げているところであります。

とりわけ、昨年度の選抜甲子園出場

に際しましては、約8,000人の方々から、前回は上回る1億1,286万円ものご支援をいただきました。昨今の経済状況から考えますと驚異的な額であります。高高同窓会の底力を実感いたしました。改めて深く感謝申し上げる次第であります。

この浄財につきましては、甲子園出場後援会より決算報告されましたように4,342万円の残金が生じ、これを同窓会に3,142万円、教育後援会に1,200万円に分けて寄付頂きました。これをできるだけ生徒の教育活動に関わることに活用していきたいと考え、同窓会への寄付金は屋内練習場建設資金に当てさせて頂きました。また、教育後援会への寄付金は、野球部活動費準備金と文武両道対策費(他の部活動支援や学習室整備等の学力向上対策)に当てさせて頂きました。この場を

お借りしてご報告いたします。

ところで、こうして甲子園関係の報告をしていますと、甲子園でのことがいろいろと思い出されます。特に、雨で3回ノーゲームとなってしまった日曜日の試合のアルプススタンドの様子は印象的でした。六千余りの席が全国から駆けつけてくださった方々で埋め尽くされました。そして、校歌が、翠巒が、天をも轟かす大音声で合唱された時の感動は格別のものでした。

原則全員参加で臨んだ在校生にとって、甲子園で得た感動は大きな誇りと自信を与えてくれました。今後、文武両道に向けて一層精進していく上で、大きな励みとなることと確信しています。

これからも、同窓会の皆様には変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます、あいさついたします。

潮流

スポーツとテレビ



こすだ かずひこ

小須田 和彦

株式会社フジテレビジョン スポーツ局 ゼネラルプロデューサー
(1980年卒 79期)

1981年 早稲田大学法学部入学
1985年 早稲田大学法学部卒業
制作会社VIC入社
1993年 フジテレビジョン入社

ロンドンオリンピックをテレビ観戦して興奮した方も多いと思います。

メダルを期待され、事前のテレビ露出が多かった、女子サッカー、体操、水泳、レスリング、卓球などの選手達は、名前と顔がすぐに分かる有名人ですが、大会前ノーマークだったボクシング、アーチェリーなどの選手達は誰も名前を知りません。ところが、メダルを獲得した途端、連日のインタビュー、スポーツニュースの取材、ワイドショーへの出演で有名人になるのです。以前、若手お笑い芸人に「どうしたらテレビに出れますか？」と聞かれて「オリンピックで金メダルを取ればテレビに出れるよ」と答えたことがありました。

ロンドンオリンピックで一躍有名になった選手の中で好感が持てたのは、ボクシング男子ミドル級金メダルの村田諒太選手です。

「金メダルを取ったことが僕の価値ではない。これからの人生が僕の価値である。恥じないように生きていきたい」と名言を残し、プロボクシングからの1億円とも言われる契約金をあっさり蹴って、金メダル獲得後、初の公式戦に選

んだのは京都代表として出場した国体近畿予選大会でした。成年の部ミドル級で優勝し、京都府の岐阜国体出場決定に貢献しました。この大会は当初、和歌山県立体育館の補助館で行われる予定でしたが、問い合わせが殺到した為に本館に変更になりました。ここでもアマチュアボクシングの普及に大きく貢献したのです。

会場が変わったといえ、9月に行われたアーチェリーのワールドカップファイナル東京大会は、メダリストの古川高晴選手と蟹江美貴選手が出場することもあり、世界へアピールできる名所として急遽日比谷公園特設会場で行われました。オリンピック競技ではないコンパウンドに出場した日本人選手は「こんなに多くの観客の前で競技するのは初めて」と感激していました。会場では初心者向けのアーチェリー体験コーナーも開設され、NHK—BSが生中継していました。これを機にアーチェリー人気が盛り上がり、世界で活躍する日本人選手が増えることを期待します。

一方、卓球の福原愛選手は村田選手とは正反対で、5歳の時に報道番組で話題になり、明石

家さんまさんのバラエティ番組に出演したりと、いつもテレビカメラが近くにありました。天才子役が大成しないように天才卓球少女も大成しないのでは、と心配していましたが、驕ることなく常に日本卓球界のトップを走り、夢のオリンピックでメダルを獲得しました。日本中が注目する中、プレッシャーをパワーに変えて、努力は嘘をつかないことを証明したのですから立派です。

8、9月に行われた、サッカーU-20女子ワールドカップ日本大会は、“ヤングなでしこ”が準決勝でドイツに完敗して優勝こそ出来ませんでした。結果的に大成功した大会でした。しかし、事前にこの大会の存在を知っていた人はどれ位いたのでしょうか？

実は、当初ウズベキスタンで開催予定だったこの大会は、施設が国際基準に満たないという理由で急遽日本に開催の話がきたのですが、日本サッカー協会内でも開催反対の声が強かったようです。そのようなわけで、8月13日19時から放送した「日本v s カナダ」の壮行試合は視聴率も5.0%と振るいませんでした。

それでも、“ヤングなでしこ”が2勝1分の快進撃でグループ予選1位通過する3試合をゴールデン枠で生放送し続けると、8月30日の韓国との準々決勝は2万4097人、9月4日の準決勝のドイツ戦には2万8306人の大観衆を国立競技場に集め、視聴率も17.6%まで跳ね上がりました。ほとんど無名だった田中陽子選手や猶本光選手が全国区のスターになったのです。1ヵ月で彼女たちの周りの環境が大きく変わりました。当初開催に反対していたスタッフも「やってよかった！」と心から言っていました。やると決めたら、やれることは全てやる覚悟が大成功に繋がった最高のケースでした。

大会終了後の会見で、世界サッカー連盟会長

は「2019年の女子ワールドカップ開催地に、日本は良い候補になる」と発言しました。

2019年といえば、すでにラグビーワールドカップ日本大会の開催が決定しています。「ラグビーにワールドカップなんて有るの？」という人がほとんどだと思いますが、立派に行なわれています。しかも、日本代表は1987年の第1回から7大会すべてに出場しています。第3回大会で自国優勝した南アフリカの活躍は映画『インビクタス』として、世界中に感動を与えました。

初めて観戦に行った1999年の第4回ウェールズ大会で現地の盛り上がりを感じ、街中にある“パブ”で全試合が見られることに感動しました。日本代表勝利の瞬間に立ち会いたくてフランス大会にも行きましたが世界の壁は厚く叶いませんでした。昨年のニュージーランド大会では、国全体が一丸となって大会を盛り上げていて、イミグレーションのスタンプがラグビーボールのデザインでした。

国の威信を掛けて戦うワールドカップの開催が7年後に迫っているのに、日本国内での盛り上がりあまり感じられません。私が学生時代のラグビー早明戦は若いファンも多く国立競技場が超満員でしたが、今はオールドファンが多く満員にはなりません。

2016年のリオデジャネイロオリンピックから男女7人制ラグビーが正式種目に採用されます。サッカーに押されっぱなしのラグビーをテレビをはじめとするメディアも覚悟を決めて盛り上げて、2019年ラグビーワールドカップ日本大会が、世界最高レベルのプレーを観戦し、世界各国の人々と交流することができる大会になれば嬉しいです。

寄稿

老醜是好日

浦野 清

京王電鉄入社、グループ各社役員 43期



「ご趣味はいまは?なにか?」と訊かれる。どおせやることもなくて毎日もてあましていらっしゃるんでしょーなんて追い討ちをかけるお人は案外いい人なのかもしれない。上品に傾けたお顔でのぞきこみニンマリ笑顔を残して去る手合いには正直いつてもかつく。

「実は鉛筆と油を少しやってまして」などとは口が裂けても言わない。目の前のお人をがっかりさせてなにがおもしろい。

さて少し付け加えると、鉛筆といってもいわゆるデッサンではない。わたくしの先生は書店の美術書コーナーに鉛筆完成画集がならんでいるほどの方で、私が自慢げにいうのもおかしい話だが横浜ビエンナーレの旗頭といってい過ぎならば“旗振り役”くらいだろうか。かーんけい無いようで、実は有る。その時期になると下っ端ほど雑用に追われるのだ。

私も風景と人物で人に見せたいのが何点かあるので、雑用と引きかえにどこか片隅に置いてくれないかともちかけたことがあった。彼も手を加えてくれている作品なのでよく知っている。するとどうだろう、さもおかしように上を向いて呵呵大笑、私も負けじといっしょに大笑いしてはすかしさをごまかした。(自らの至らざる報いを他の所為に帰す性こそ先ずは糾すべし)

普通は色彩を抜きにして絵画をイメージすることは滅多にない。私も身近な先生に油絵の手ほどきを受けてきたが、いかんせん生来の天分乏しく進

歩の跡は一向に見られない。ただ色とあそぶ面白さは飽きることがない。混色、ぼかし。色のグラデュエーションだけで表現する遠近法などなど、描画を離れて色と遊んでいる自分に気が付くことがある。

油絵のいいところは、前の作品を引っ張り出して、気懸かりだった箇所をあとから重ね塗りしたり、さらには新たに湧いた画想の赴くままに、元絵とは似ても似つかぬ構図・色の三次元世界を拵えることに尽きる。

乾きにくく、いったん乾いたらなんでもありの特性は、水彩などにくらべて実に有難い。無精者にはもってこいの画材・画法ともいえるが、最近は安くて便利なアクリル絵具と乾き・艶など自由自在の画溶液の開発普及が急で、このままだと伝統美術の油絵はどうなっていくのか気になる。紙幅もつきそう、しかも難題に追い込まれた感あり。突然ですがルーブルのモナ・リザを近くで見たことありますか。あの画面いっぱい小さなひび割れにわたくしは声も出ませんでした。

五百年前にはチューブ入りもなかったし、ダ・ヴィンチさんのすぐ後ろで絵具班がその日のモチーフ用の顔料と油を練り混ぜる作業に追われていました。絵の進行にあわせてデリバリー・チームは硬軟粘度ぴったりのこて盛りをすかさず画家の利き手にタッチしました。(どうやら見てきたようなーになりそうなので、是好日終わり)

寄稿

在学中思い出と 同期の交流「二水会」

田島 高志

元駐カナダ大使 53期



思い出の第一は、53期生の入学する直前に校舎が火事で消失したことである。そのため、入学後の1学年は連隊跡地の仮校舎で授業を受け、2学年から新校舎に移った。私は生物部に入り、名士井上房一郎氏の寄贈されたバラ園の手入れのお手伝いが最初の活動であった。観音山のほか赤城山などへ植物採集に行った。文化祭では、来訪者の血液型検査をして感謝されたが、隣のテーブルに展示しておいた蛇の解剖の麻酔が切れて、蛇が床の上を這い始め、見物中の女子校生が悲鳴をあげて逃げ出すという失敗談もあった。

同期のそれぞれが大学に入り、卒業し、就職してから、東京に生活する仲間が、毎月第2水曜日の夕食時に、都合のつく者同士で自由に飲み食い駄弁り合う「二水会」と名付けた集まりが30年以上前に始まった。私も時々参加し、忙しい仕事を忘れるひと時を楽しんだ。海外勤務の間は勿論無理であったが、私がカナダ大使になったとき、皆が田島のところへ行こうと言い合い、夫人同伴者も含め総勢26名の団体を組み、遠路はるばる首都のオタワまで来てくれた。大使館でカナダ事情の説明を聴いてもらい、夜は郊外の自然保護区内にある大使公邸で愉快に夕食懇談会を

開いた。食後に、皆でテーブルの周りを円形に肩を組み合って並び、応援歌「翠巒」を歌ったことは、忘れ得ない思い出である。後日、皆の好意による桜の苗木3本を前庭に植樹し、その由来を記したプラークを公邸の外壁に張ったのも記念である。

「二水会」は、代々の幹事の献身的なお世話のお蔭で、現在でも、昼食、七福神巡り、花見、ゴルフ、などの形で、毎月のように集まり、旧交を温め、親睦を続けており、これまでの行事開催総数は300回超になると聞く。これは、恐らく他の同期会には例を見ない貴重な「絆」の記録ではなかろうかと、互いに参加を楽しみ、健康を祈り合っている此の頃である。



筆者夫妻で参加した二水会の旅行にて

寄稿

夢は はかなく…



羽鳥 修司

割烹魚仲 代表取締役 63期

今年五月に「金環日食」を見ることが出来た。「部分食」は何度か見ることはあったが、皆既日食はもちろん金環食も高崎や関東では見られなかった。テレビのニュースで拝見するだけであった。それがこの歳（66才）になって美しい「金環食」が見られた。まさに「冥土の土産」かも知れない。

私は小学生のころから「星や星座」だけには興味を持っていた。当時は烏川の河原へ行けば「天の川」がはっきりと見えた。「星座早見表」を片手に夜空を見上げながら、あれが七夕の「織姫」と「牽牛」でベガとアルタイルと云うふうに肉眼で見える星座や星の名は四年生の頃には頭の中に入っていた。全天に20余り有る「一等星」の名前と星座も諳んじて言えた。これには先生も感心していろいろ手助けや、本の紹介もしてくれた。「野尻抱影」の著書を小学四年生が一生懸命に読んだのを覚えている。このころだったと思うが、東京の渋谷に戦後初めて「プラネタリウム」が開業した。大学生だった兄に懇願して連れて行って

貰った。今で言えば「スカイツリー」へ行ったようなものだが、当時の私には「宇宙飛行士」になって月に行くのと同じくらい嬉しかった。そこで、日本から見えない「南半球の夜空」にも憧れた。「南十字星」、天狼星シリウスの次に明るい「アルゴ座のカノープス」「大小マゼラン雲」等プラネタリウムの見せてくれる未知の世界に酔いしれた。近年になってオーストラリアで念願の「南十字」に出会う事が出来、初めてプラネタリウムに行った時の感動を思い出した。

今の私を知っている人たちは信じられないかもしれないが、こんな少年時代もあって大学へ行くなら「天文学」を勉強したかった。しかし自分の学力の限界と高高の友人達に恵まれ過ぎ、「勉強」より「遊び」「部活」に熱を入れてしまい、志望学部に必要な「数三」や「物理」が全く解らず「文科系」への変更を余儀なくされた。昔、聖書のように大切に読んだ本の著者、野尻先生と同じ早稲田に行けたのがせめてもの慰めかも知れない。

寄稿

邯鄲の夢



重田 誠

重田こども・アレルギークリニック 院長 73期

今年は、高崎高校が31年ぶりに甲子園出場を果たし、多くの同窓生が胸を熱くしたと思われる。私達が高校3年生の時も、73期同期会の事務局をしてくれている中村康晴君がピッチャーとして北関東大会で、あの怪物江川卓を擁する作新学園と対戦して惜しくも甲子園出場を逃したことがあり、そのことが昨日のことのよう思い出される。

同期の友人達も、いつの間にか髪に白い物が目立ち、往年とは異なった体型となり、歳を感じるようになってきている。会社や団体、大学、病院などの中核として活躍するものや、少しリタイアに近いものなど、仕事や社会の中の立場にも変化がおこり、あと数年で還暦を迎える時期になってきている。

同窓会は、多くの人にとっては楽しみであるが、高校生活にあまり良い思い出がない人や、今が少し不遇の時期にある人にとっては出席しにくいものでもある。私もあまり同窓

会は得意な方ではなかったが、何の因果か同期の代表幹事となり、多くの同期生の御協力をいただき、新年同窓会や同窓会ゴルフなどのイベントや毎年の同期会を行うことができています。多くの同期の方に感謝するとともに、同窓会、同期会での出会いや交流を大事にしていきたいと考えています。元気な時はもちろん、ちょっと疲れて息をつきたいと思った時に、出席して活力をもらえ、少し安心できるような同期生の集まりを続けたいと思い、そのための黒子として少し貢献できればと思っています。

人生は邯鄲の夢だが、それだからこそ出会いとその時間を大切にできればと思いつつ、高崎高校同窓会、73期同期会の益々の発展を祈念している。

私の仕事

「記者」という仕事

かんべ かねぶみ
神戸 金史

RKB毎日放送 テレビ制作部長 84期



高高時代から、かなりの「天の邪鬼」だったと自覚しています。偉そうな人が嫌いでした。決して偉くはなれそうにない自分。コンプレックスの裏返しからだったのでしょう。時はバブル前夜。高高生にもおしゃれな生徒が増える中、絶滅寸前の高下駄（朴歯）で過ごしました。もてなくなかったわけではありませんが、身なりにこだわらなくなかったのです。あえて逆を選びました。

当時の水穴再喜校長は東京大学出身。「東大に行け!」と奮起を促す言動が目立ちました。進学のためには高校生活はある程度統制しようとするにおいを感じ、生徒会長だった僕は時に激しく対立することになりました。

ちょうどそのころ、OBの中曽根康弘さんが総理大臣に就任しました。これ以上「偉そうな地位」はないですね。長い間、自民党は圧倒的な政治勢力でしたし、OB総理の推し進める教育改革路線は、水穴校長の言動と重なって見えました。

ここで、恥ずかしい思い出を記さねばなりません。高3の冬、「総理と語る」という番組が群テレで企画されました。男女各4人の高校生との対談番組です。水穴校長はなぜか「高高からは君が行け」と勧めました。僕は「首相官邸に入る機会はない」と、収録に行くことにしたのです。

円卓で、総理の横に座りました。女子生徒がにこやかに「総理はどんな勉強をして東大に入ったのですか」と聞きました。当時の僕には、最高権力者におもねっているようにしか見えませんでした。居心地の悪さにずっと無言でいたところ、総理は「神戸君は歴史が好きなのか。僕は司馬遼太郎が好きなんだが、読んだかね」とおっしゃいました。僕は「いえ、あまり好きではないです」と即答しました。実は、司馬遼太郎さんの小説は読んだこともなかったのですが。こんなことで内心「やった!」と大喜びするほど、僕は子供でした。（このシーンはそのまま放送

されました）

僕はどうも世の中に合わせることに苦手で、バブル最中の大学時代には絶滅寸前の学生運動に関わりました。「おかしいことはおかしい」と、社会に物申してやる気で、就職先は全国紙を選びました。5年間で優は5つしかありませんでしたが、毎日新聞に採用され長崎支局に配属されたのです。

最初の署名原稿を書いた時のことです。上司の支局デスクから指摘を受けて、素直に原稿を直しました。そこで、デスクからこう言われました。

「俺たちが戦わなきゃいけない相手は、権力だ。でもそれは政治家や行政だけか? あんたは俺とケンカしようとしなかったな。まずは、デスクの俺とケンカしようじゃないか。原稿に納得すれば、俺は部長とケンカになっても押し通す。記者として不正と戦いたいなら、その前に“社内の権力”とも戦う覚悟も持っておこうや。左遷されたっていいじゃないか。俺らはサラリーマンだが、それ

以上に記者だぞ。出世より大事なものがあ——」

デスクの言葉は、今でもよく覚えています。記者である以上、自分の保身は後回しにする癖が付きましました。毎日新聞では、多くの先輩がそうした姿勢を保ち、上司とけんかをしていました。みんな格好良かったです。僕が20代の若い目で見たメディアの内情は、『雲仙記者日記～島原前線本部で普賢岳と暮らした1500日～』（ジャストシステム刊）という本に包み隠さず書いていますので、興味のある現役生は高高の図書館でお読みください。

ただ、社会人になって、いわゆる保守勢力にも、魅力的な人がいることを知りました。惹かれるのは組織ではなく人間なのだなと思いました。当たり前のことですが。鬼籍に入った水穴校長も、今となっては恩人の一人だと思っています。

東京社会部在職時に、縁あって福岡の民放「RKB毎日放送」に転職しました。この春、テレビ制作部に異動するまで、20年以上を報道現場で過ごしてきましたが、「記者の仕事は会社のためではなく、社会のため」と、本気で思ってきました。

しかし、3・11の大災厄を経て、ジャーナリズムを見る目は大きく変わりました。「報道規制ってあるんですか」「電力会社の批判はできないんですよ」。よく聞かれるのですが、何かの圧力に負けて筆を曲げたことは一度もありません。以前、「とても大事なスポンサーなので、この不祥事は特ダネにしないでくれ」と社の偉い人から一度だけ懇願されたこと

がありますが、拒否してニュースにしました。サラリーマンではありますが、記者は本質的には職人なので、譲れないことは譲れないのです。

この特ダネでスポンサーは怒り、その分の収益は失われました。しかし、営業担当者も偉かったです。「報道機関であるから信用され、CMも売れる。特ダネで収益を失ったら、僕らがどこかで取り返す。それが営業のプライドです」という言葉を聞いた時、僕はこの人たちを誇りに思いました。

世評とはあまりに違う、報道の世界ではないでしょうか。

しかし、メディア全体を通してみると、劣化が進んでいるとしか思えないことがあります。それは、サラリーマン体質の記者が増えてきたことに起因している印象を持っています。特に、厳しすぎる就活を経てきた新入社員は、あまりに会社に従属的な気質を持っているように見え、気になって仕方ありません。

あえて言いたいのは「天の邪鬼であれ」ということです。そして、社会のための仕事である以上、自分の保身を考えてはいけません。客観報道というものはないかもしれませんが、「公正な報道」は、はっきりと存在します。

以前、うちの若い記者向けに僕が書いた文章を原文のままご紹介します。

- ・ネタの価値より、デスクの意見を優先する（保身）
- ・意図的に報道をする（利益供与）
- ・ネタが取れず困って嘘をつく

（その場しのぎ）

自分はこんなことはしない、と否定しますか？ 強いものには逆らわない、そんなサラリーマン的な風潮が報道の多数派になったとき、国家は道を誤ります。

「アイ・キャッチのためなら、少しくらいオーバーな表現になってもいいじゃない」という放送人。「会社としてはこうだろう」と私たちに何かを要求してくる上司。「自分たちこそが正義だ」と確信を持つあまり、ほかの多様な言論を許さない市民。

私たちは、こうした人と相対するたびに身を引き締め、同調することを戒めなければなりません。

- ・自分のためでなく（×保身）
- ・誰かのためでもなく（×利益供与）
- ・取材先と誠実に向かい合い
- （×その場しのぎ）
- ・未来にささやかな責任を持つ
- （自分もまた歴史の中で生きていくという認識）

言葉にしてしまうと格好よすぎますね。でも、こんな当たり前のことが「公正さ」ということではないのだろうか、と思うのです。

天の邪鬼の僕にとって記者は「天職」だったのかもしれませんが、自分が好きなことをしてきた土俵は、先輩たちが整えてくれていたものだと自覚しています。僕も今は管理職になってしまいましたが、後輩の土俵を作るためなら、これからも天の邪鬼であり続けようと思っています。

同窓会だより

■卒業50年の歩み

同窓会報いつも有難うございます。楽しみに拝読させていただきます。

62期の我々が在学したのは、昭和35年4月から38年3月でした。一年生の時初めて大穴でスキー教室が開催され、中曽根康弘化学技術長官や湯川秀樹博士の講演、学外では新安保条約の成立、樺美智子さん死亡、池田内閣の所得倍増政策、高崎音楽センター落成。世界ではガガーリン少佐の地球周回の成功、ケネディ大統領のキューバ封鎖等が起きていた時でした。

我々は、40歳になったときに高崎在住の有志が集まってフォーティフォーラム・クラブ（FFC）を立ち上げました。それ以来毎年、事業計画を作成し月毎に当番幹事を決め毎月行事を楽しんでいます。

例えば、平成23年2月～平成24年1月の行事は、2月総会・懇親会、3月新入会員卓話、4月高崎少年少女発明クラブの佐藤会長卓話と工作、5月高々同窓会ゴルフ大会参加とハワイアンの夕べ、6月座禅と法話、7月津軽&沖縄三味線演奏、8月新入会員卓話と納涼

加藤 勝二

税理士法人 合同会計 代表社員 62期会長

会、9月戸隠古道ハイキング（奥さん同伴）、10月健康卓話、11月群響定期演奏会鑑賞と秋季ゴルフ大会、12月忘年会、1月初打ちゴルフ大会と高々合同新年会参加等盛りだくさんの行事を27年間で約560回も続けています。

現在（平成24年8月）で38名の会員がいます。最近仕事は引退して故郷へ戻ってくる会員がこのFFCの存在を聞きつけて入ってきています。人生の仕上げの最終コーナーにさしかかっている年齢ですので健康で楽しく皆で助け合いながら最後の一人までこの会が続くことを祈っています。また62期の人の加入をお待ちしております。



奥さん同伴のハイキング（後列左より2番目）

■同窓会新年総会と82期

野口 俊康

野口病院副院長 82期

こんにちは。82期の野口俊康です。82期同窓会について御紹介します。

私達82期は1983年3月高高を卒業し、その後同窓会活動はほとんどしていませんでした。数年前から10人位何となく集まって、幹事期が近づいているよ、と話題にする程度でした。

しかし、昨年秋に高高の先輩から、「82期は何をしている！」と喝を入れられ慌てて活動を開始しました。

卒後30年の節目で同窓会新年総会の幹事を行う事など今まで知らなかった事をいろいろ勉強させて頂きました。

とは言っても卒業時は400人近くいた同級生も、すぐに連絡を取れる者が20人程度、それから地道に連絡を取り始め、何とか150人程と連絡が取れ

るようになりました。この夏の82期同窓会でも70人集まって頂き、来年1月の第111回高中・高高同窓会新年総会に向けて準備を進めています。

1年1回の総会を楽しみにしている先輩方も、数多くいらっしゃると思います。当日皆様楽しんで頂ける様“おもてなしの心”で務めさせていただきますので、どうかよろしくお願いいたします。



第66回 定期戦

完全勝利!



定期戦を終えた今、私は高崎高校の歴史の深さを感じます。今年で66回となった定期戦で実行委員長をさせて頂いたことで、既にわかっていたこの事を更に強く感じるようになりました。私が定期戦に関わった時間を顧みるに、そのほとんどが先輩たちの残した足跡を辿っているに過ぎず、其れを悟る事は、私に自らのすべき事を示してくれたと思います。

実行委員長とは先人の残した道を正しく見極め、同期生徒達の進むべき道をきちんと示す。そのための存在だと。大それた役職に軽々しく就いてしまったものだと、気付いた当初、私はその責任の重さに押し潰されそうでした。そんな私が、周りの協力を仰ぐ以外には任務遂行の方法を思いつけなかったのは、言うまでもありません。そして、その多くの支えがあったからこそ私は恐れ多くも先輩方と同じ土俵に立ち、先輩方の進んできた道よりも更に奥へと歩み出て、そして勝利を掴めたのだと思います。

最後に、濁っているかもしれないけれどその一滴になれたこと、そして、そうなるために協力をして下さった全ての方に最高の感謝の言葉を述べ定期戦の報告とさせていただきます。

第66回定期戦実行委員長 3年 鈴木 慎哉

第66回定期戦得点表

部対抗		種 目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		水 泳	0	9
		駅 伝	7.5	1.5
		綱引き	6	3
		玉入れ	3	6
		ソフトボール	6	3
		長縄跳び	4	2
0	6	卓 球	5	4
6	0	陸上競技	9	0
6	0	ソフトテニス	6	3
6	0	バレーボール	5	6
6	0	バスケットボール	6	3
6	0	柔 道		
0	6	剣 道		
0	6	弓 道		
6	0	空手道		
6	0	サッカー		
0	6	ラグビー		
6	0	硬式野球		
0	6	軟式野球		
0	6	テニス		
42	36	小 計	57.5	40.5
99.5	高高	総 合	前高	76.5

進路状況(全日制) ()内は現役

大学	年次	22年	23年	24年	大学	年次	22年	23年	24年	大学	年次	22年	23年	24年
北海道大		10(6)	6(5)	8(8)	金 沢 大		5(5)	4(4)	15(14)	明 治 大		94(69)	101(74)	86(56)
東 北 大		21(17)	28(25)	20(18)	信 州 大		2(1)	1(0)	7(6)	上 智 大		7(4)	4(4)	7(5)
筑 波 大		11(10)	11(10)	9(9)	名 古 屋 大		3(3)	2(2)	1(1)	立 教 大		21(14)	22(15)	28(22)
千 葉 大		7(7)	4(3)	4(1)	京 都 大		2(1)	8(6)	5(5)	学 習 院 大		3(1)	7(3)	0(0)
群 馬 大		26(21)	23(9)	29(24)	大 阪 大		4(4)	0(0)	2(1)	青 山 学 院 大		16(14)	11(5)	16(9)
(医)		6(4)	7(5)	8(5)	首 都 大 東 京		2(2)	8(5)	4(2)	法 政 大		42(36)	37(25)	37(27)
埼 玉 大		5(4)	11(10)	6(3)	高 経 大		11(8)	22(19)	16(15)	日 本 大		70(58)	56(41)	66(59)
東 京 大		9(4)	7(5)	3(1)	慶 應 大		38(21)	39(24)	29(21)	東 京 理 科 大		99(74)	92(65)	75(57)
一 橋 大		2(1)	4(4)	4(3)	早 稲 田 大		53(33)	77(52)	55(37)	芝 浦 工 業 大		57(53)	63(54)	74(57)
東 工 大		4(3)	6(4)	4(4)	中 央 大		59(44)	72(48)	67(48)	同 志 社 大		3(2)	12(9)	8(5)
横 国 大		3(2)	5(3)	5(4)						立 命 館 大		11(7)	15(12)	32(27)
新 潟 大		8(5)	16(15)	13(13)										

時代を振り返って…

翠巒祭

翠巒祭の始まりについて

今年の8月下旬、昭和35年（1960年）に第1回翠巒祭を開催した当時の生徒会長佐藤隆志氏と放送部長佐藤義久氏が高崎高校に来校された。そこで翠巒祭の始まりについての話を伺うことができた。昭和34年秋まではほぼ2年に一度の文化祭が開催されていたが、3年生でも何か大きな行事を行いたいと考えて、春に「翠巒祭」を開催することになった。

応援歌「翠巒」から名をもらい、薔薇も美しい時季（第1回は5月27日・28日）の開催

とした。両氏の話によると、秋の文化祭とは「趣旨の違った新しいもの」という意識で翠巒祭は始められたようであり、継続的に開催すると決まっていなかったそうである。ただ紅白歌合戦は必ず行う（佐藤義久氏）と決めていたということである。結果として第8回文化祭が第1回翠巒祭という形となった。そのため、翌年の昭和36年（1961年）のパンフレットには第9回翠巒祭と明記されている。



◀フォークダンスを踊る佐藤氏

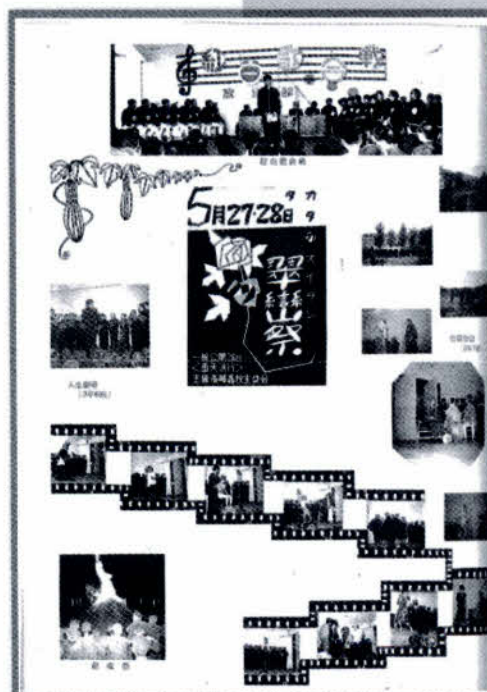
当時の思い出写真

このフォークダンスの写真は、1年程前に昔の写真を整理していた際に出てきたものです。

フォークダンスは翠巒祭の最後を締め括る一大イベントでした。女子高生の参加が多かったのに比べ、高高生は尻込みをする者が多く、男女の数に多少のバランスを欠くことになったと思いますが、校庭一杯に広がった二人一組の列の輪は壮大な光景でした。

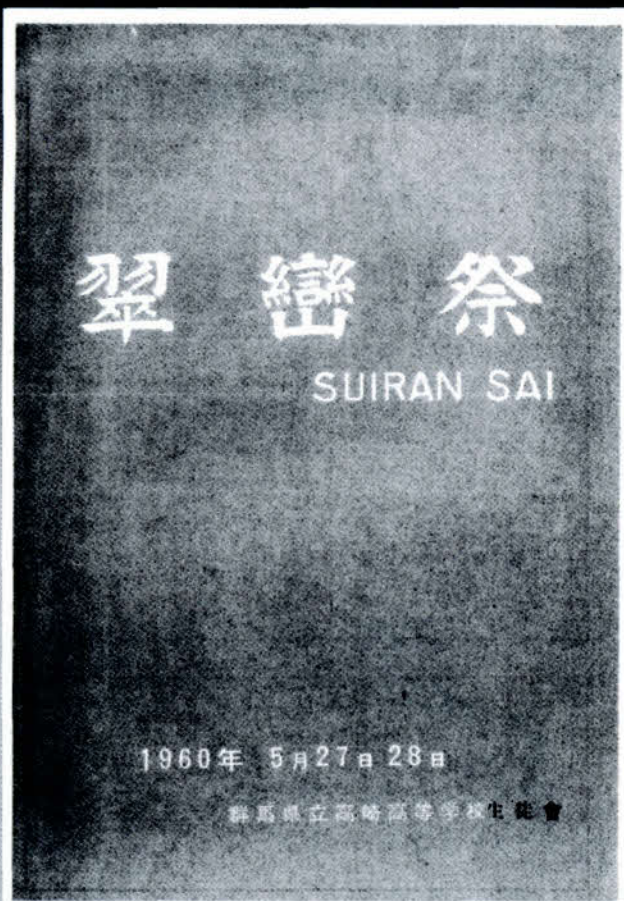
多くの高高生がそうだったと思いますが、小生も初めての経験だったので、曲が流れ、いざ女子高生と手を繋ぐと緊張しっぱなしで、終わったときには手の平が汗ばんでいたことが懐かしく思い出されます。

60期 佐藤 義久



◀卒業アルバムの中の当時のポスターデザイン

第1回翠巒祭パンフレット



日程表

時間	内容
13:00-13:30	開会式
13:30-14:00	演劇部発表
14:00-14:30	音楽部発表
14:30-15:00	ダンス発表
15:00-15:30	合唱部発表
15:30-16:00	演劇部発表
16:00-16:30	音楽部発表
16:30-17:00	ダンス発表
17:00-17:30	合唱部発表
17:30-18:00	閉会式

翠巒祭開催にあたって

翠巒祭は本校の伝統行事であり、生徒の自主的な活動の場として、毎年開催されています。今年も、生徒の創意工夫が溢れる素晴らしい作品が発表されることを期待しています。また、来賓の皆様にも、本校の文化と生徒の成長を伝える貴重な機会となることを願っています。

★ラグビー部招待★

28日 対保善高校
サブオフ 1:00

演劇

英語劇

英語劇は、生徒の英語力向上と表現力の育成を目的としています。今年も、様々なテーマで制作された英語劇が発表されます。観客の皆様にも、英語の楽しさや文化の違いを学ぶ機会となることを期待しています。

『男の家』

『男の家』は、社会問題を取り上げた力作です。生徒の演技力と脚本力が試される作品です。観客の皆様にも、社会問題について考えるきっかけとなることを期待しています。

告様の日英堂

高崎市通商町29
電話 5459番

サービスの店 アクザワ電機

高崎市通商112・TEL 3427, 3767番

金物は春山
高崎市通商町29
TEL 5459

セーラーデパート
高崎市通商町29
TEL 5459

大は新聞
高崎市通商町29
TEL 5459

要本ミルク7ラント
高崎市通商町29
TEL 5459

4紅白歌合戦
高崎市通商町29
TEL 5459

…そして現在へ 第60回 翠巒祭開催 テーマ「TryAngle」

第60回翠巒祭は「TryAngle」というテーマのもと、過去最高記録を大きく更新する13,142人も来場者を迎え、大盛況の中幕を閉じました。

今年は60回目という大きな節目を迎えましたが、ここに留まることなく更に進化を続けようとの思いを込めて、多くの新たなことに挑戦しました。結果としては、評判の良かったものもあれば、もっと改善が必要なものもあり、一概に大成功だったとは言えません。しかし、失敗を恐れずに様々な企画に挑戦できたこと、そしてその姿勢を後輩たちに示せたことで私は満足です。これからは後輩たちが進化させ続けてくれると信じています。

最後となりましたが、第60回翠巒祭を開催するにあたり、

ご尽力をいただきましたすべての方へ、心から感謝を申し上げますとともに、高生へより一層の御支援を賜りますようお願い申し上げ、ご報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

第60回翠巒祭実行委員長 3年 小宅 駿汰

過去最高記録
来場者 13,142人



今回の選抜甲子園大会において、このような素晴らしい賞を受賞できた事を非常に光栄に思います。今回受賞が出来たのは、生徒だけでなく、OBの方々含め、高崎高校関係者全員の協力があったこそだと思います。有難う御座いました。

應援部として今回の活動に関係できた事は非常に有意義であり、今後の更なる活動の発展のための大きな足掛りとなったと確信しております。

最後に、今後の高崎高校の発展と、我々の活動への御理解、御協力を御願いし、挨拶と致します。押忍。



選抜甲子園出場記念号『スポタカ』において、檜舞台での硬式野球部の活躍をお伝えでき、部員一同大変うれしく思っています。保護者・OBの皆様を始め、沢山のご支援・ご協力本当にありがとうございました。

翠巒祭時に発行した記念号が、県高校新聞コンクールで昨年に引き続き知事賞を受賞したほか、全国高校新聞コンクールでも優秀賞に選ばれました。どちらも身に余る栄誉ではありますが、これに驕れることなく日々、腕を磨いていきたいと思っています。今後とも新聞部の活動にご協力よろしくお願いします。



- ①関東大会
- ②インターハイ予選
- ③全国高校総体
- ④国体
- ⑤県新人大会
- ⑥その他の大会

2回戦 高崎0-7 東京農大二高校

2回戦 高崎2-5 伊勢崎清明高校

高崎9-3 藤岡中央高校

高崎5-0 富岡実業高校

高崎1-8 健大高崎高校

高崎7-0 榛名高校

- 2回戦 高崎 不戦勝 藤岡北高校
 3回戦 高崎4-3 高崎商業高校
 4回戦 高崎3-2 伊勢崎商業高校
 準々決勝 高崎1-8 健大高崎高校
 (ベスト8)

- ⑥1年生大会(合同Bとして参加)
 ※合同B(高崎・高商・安総・富岡・伊高)
 合同B2 6-0 合同C
 合同B0-6 7 明和県央
 (ベスト8)

- ⑥県選手権大会
 《予選リーグ》
 高崎53-0 伊勢崎興陽
 高崎26-7 桐生
 《決勝トーナメント》
 高崎91-0 高工
 高崎10-24 高商
 (ベスト8)

- ②2回戦 高崎1-0 農二
 3回戦 高崎4-0 関学
 4回戦 高崎2-0 高北
 準々決勝 高崎2-1 共愛
 準決勝 高崎0-3 前商
 (ベスト4 第3位)

- 全国高等学校サッカー選手権大会
 群馬県大会 決勝トーナメント
 1回戦 高崎2-1 太田工業
 準々決勝 高崎3-1 伊商
 準決勝 高崎0-5 前橋育英
 (ベスト4 第3位)

- ①1回戦 高崎2-1 駒大高
 2回戦 高崎2-1 土浦日大
 3回戦 高崎0-2 東亜学園
 (ベスト16)
 ②3回戦 高崎2-0 明和県央

- 準々決勝 高崎2-0前商
準決勝 高崎2-1伊勢崎
決勝 高崎1-2桐商(準優勝)
④本校より2名(土屋健太郎、樋口裕希)出場
関東ブロック予選
群馬2-1茨城
群馬2-1栃木
本大会関東ブロック突破 1回戦
群馬0-2宮城
⑥西毛地区大会
準々決勝 高崎2-0高東
準決勝 高崎2-0榛名
決勝 高崎2-0高工(優勝)
⑥全日本バレーボール高等学校選手権大会
(春の高校バレー)群馬県予選会
3回戦 高崎2-0前橋
準々決勝 高崎2-0高工
準決勝 高崎2-0伊商
決勝 高崎1-3伊勢崎(準優勝)

陸上競技部

- ①②関東高校陸上競技大会(前橋)
兼インハイ予選
東間 央剛(3年)100m 決 2位
※学校新記録
市川響太郎(3年)110mH 決 4位
※学校新記録
4×100mR
齋藤 郁磨(3年) 1走 決 7位
東間 央剛(3年) 2走 決
久新陽一郎(2年) 3走 決
市川響太郎(3年) 4走 決
市川響太郎(3年)棒高跳 決 1位
※学校新記録
阪本 哲郎(3年)三段跳 決 3位
宮入 紳豪(2年)円盤投 決 5位
有吉 淳弥(3年)八種競技 決 8位
・男子総合成績 32.5点 第3位
③東間 央剛(3年)100m 準組 5位
※学校新記録
市川響太郎(3年)110mH 予組 4位
棒高跳 決 9位
阪本 哲郎(3年)三段跳 予組13位
宮入 紳豪(2年)円盤投 予組14位
④市川響太郎(3年)110mH 予組 6位
棒高跳 決 7位
阪本 哲郎(3年)三段跳 決 14位
⑤久新陽一郎(2年)100m 決 4位
久新陽一郎(2年)200m 決 3位
栗原 勇貴(2年)800m 決 1位
奈良 航佑(2年)1500m 決 6位
奈良 航佑(2年)5000m 決 4位
山森 魁人(2年)5000m 決 8位
田代 健人(2年)110mH 決 2位

- 山森 魁人(2年)3000mSC 決 4位
4×100mR
鈴木 夢人(2年)1走 決 2位
久新陽一郎(2年)2走 決
岡田 大樹(2年)3走 決
田代 健人(2年)4走 決
4×400mR
安達耀一郎(2年)1走 決 3位
田代 健人(2年)2走 決
淡路 将史(1年)3走 決
鈴木 夢人(2年)4走 決
岡田 大樹(2年)走高跳 決 6位
橋場 進哉(2年)棒高跳 決 8位
小坂橋遼太(2年)三段跳 決 1位
宮入 紳豪(2年)円盤投 決 3位
・200mを除く3位以内の上記6種目で関東
選抜新人大会(甲府)に出場
⑥関東選抜新人陸上大会
栗原 勇貴(2年)800m 決 5位
小坂橋遼太(2年)三段跳 決 8位
宮入 紳豪(2年)円盤投 決 3位
⑥県高等学校対抗陸上競技大会
・男子総合成績(一部校12校中)119点第2位
⑥高校駅伝 第3位 2時間14分32秒
牛窪 浩平
栗原 勇貴
奈良 航佑
大谷 拓嗣
新井 琢也
山森 魁人
高橋 快

水泳部

- ①⑥関東高校県予選にあげた種目で出場
200m個人メドレー 後藤大輝 23位
400m個人メドレー 後藤大輝 16位
以上2種目で全国標準記録を突破し、
全国大会へ出場
③200m個人メドレー 後藤大輝 39位
400m個人メドレー 後藤大輝 29位
④400m個人メドレーリレー
後藤大輝 出場
⑤100m自由形 宮崎勝正 4位
200m自由形 宮崎勝正 6位
200mリレー(宮崎・小林・青木・中里) 6位
200mメドレーリレー(吉村・武藤・宮崎・青木) 5位
⑥関東高校県予選 男子総合 第5位
100mバタフライ 神原孝行 4位
100m背泳ぎ 神原孝行 5位
200m個人メドレー 後藤大輝 1位
400m個人メドレー 後藤大輝 1位
400m自由形 増田泰誠 7位
1500m自由形 増田泰誠 5位
400mリレー(神原・堀込・宮崎・後藤) 6位

- 800mリレー(後藤・増田・堀込・神原) 5位
400mメドレーリレー
(神原・後藤・増田・堀込) 6位
以上の種目で関東大会標準記録を突破
し、関東大会へ出場。
⑥県高校総体 男子総合 第4位(67点)
100mバタフライ 神原孝行 2位
100m背泳ぎ 神原孝行 3位
200m個人メドレー 後藤大輝 1位
400m個人メドレー 後藤大輝 1位
200m自由形 増田泰誠 3位
400mリレー(神原・増田・宮崎・後藤) 2位
800mリレー(後藤・増田・堀込・神原) 4位
400mメドレーリレー
(神原・後藤・増田・宮崎) 5位
⑥長野・山梨・群馬 三県対抗水泳競技大会
後藤大輝 個人メドレー出場

ソフトテニス部

- ①個人 奈良・中島組、青木・代田組出場
②団体 2回戦 高崎3-0館林
3回戦 高崎2-0富岡
4回戦 高崎2-0渋川
準決勝 高崎1-2前商
(第3位)
個人 森田・小坂橋 3位
③個人 1回戦
森田・小坂橋4-1荒木・酒井(高岡商)
2回戦
森田・小坂橋0-4藏永・中村(長府)
⑤団体 2回戦 高崎3-0前工
3回戦 高崎2-1利商
4回戦 高崎2-1太工
準決勝 高崎2-0高商
決勝 高崎0-2前商
(第2位)
個人 森田・小坂橋(ベスト8)
⑥個人 串田・小坂橋 3位
⑥串田・津久井組(ベスト8)

卓球部

- ②2回戦敗退 高崎1-3伊商
⑤2回戦敗退 高崎0-3桐生
⑥国体予選
個人シングルス ベスト64
⑥群馬県高校卓球強化大会
個人シングルス ベスト64
個人ダブルス ベスト32
⑥全日本卓球選手権大会群馬予選会
個人シングルス ベスト64

剣道部

- ②1回戦 シード
2回戦 高崎3-0 渋川
3回戦 高崎2-1 桐生
準々決勝 高崎1-3 育英(ベスト8)
⑥《団体》県学校対抗選手権大会 2回戦敗退
《個人》佐俣善康(1年)ベスト16

柔道部

- ①個人戦 角田裕祐 ベスト8
②個人戦 角田裕祐 90kg級 優勝
団体戦 1回戦 高崎4-1 健大高
2回戦 高崎1-4 太工
③個人戦 角田裕祐 90kg級 5位入賞
⑥群馬県柔道ジュニア選手権大会
角田裕祐 90kg級 優勝
関東柔道ジュニア選手権大会
角田裕祐 90kg級 出場

《相撲競技》

個人戦・団体戦出場(関東大会)

弓道部

- ②⑤⑥予選敗退

空手道部

- ⑥群馬県高等学校空手道1・2年生大会
個人組手 田中智士 第5位(ベスト8)

軟式野球部

- ②全国選手権予選
1回戦 高崎8-4 桐工
2回戦 高崎2-6 高工
⑤1回戦 高崎7-2 前南
2回戦 高崎2-3 前橋
⑥強化リーグ戦(10月20日)
高崎0-5 桐生
高崎8-1 館林

テニス部

- ②団体戦 (ベスト16)
シングルス 根岸 寛(ベスト32)
⑤団体戦 (ベスト16)

バドミントン部

- ③学校対抗戦
1回戦 高崎3-0 商大附
2回戦 高崎2-3 前東

- ダブルス 吉野・山口組(ベスト64)
清水・金田組(ベスト64)
④シングルス 安田(ベスト32)
ダブルス 安田・山口組(ベスト16)

- ⑥学校対抗戦
JOC(ジュニア・オリンピック・カップ)大会
ダブルス 山口・小坂橋組(ベスト32)
金田・藤田組(ベスト32)
安田・伊藤組(ベスト32)

スキー・スケート部

- ①関東高等学校スキー大会
増村 賢人 GL8位・SL6位
山田 駿 GS4位・SL4位
同・県予選
増村 賢人 GS2位・SL4位
山田 駿 GS9位・SL3位
②高校総体スキー競技兼全国高等学校
スキー大会県予選
増村 賢人 GL4位・SL6位
山田 駿 GS9位・SL9位
③全国高等学校スキー大会(インターハイ)
増村 賢人 GS出場
⑥全国高等学校選抜スキー大会
山田 駿 SG・GS・SL出場
増村 賢人 SG・GS・SL出場

バスケットボール部

- ②平成24年度群馬県高等学校
バスケットボール選手権大会兼第65
回全国高等学校総合体育大会県予選会
1回戦 高崎 81-52 前東
2回戦 高崎 86-56 渋工
3回戦 高崎 56-70 太東
(結果:ベスト16)
⑤西毛地区バスケットボール新人大会
2回戦 高崎74-42 県央
3回戦 高崎89-50 藤岡中央
準決勝 高崎90-41 高経附
決 勝 高崎62-77 高崎商業
⑥平成24年度全国高等学校バスケット
ボール選抜優勝大会県予選会
1回戦 高崎 82-34 藤岡中央
2回戦 高崎105-38 渋川
3回戦 高崎123-53 利根商
4回戦 高崎 94-78 勢多農
準々決勝 高崎 41-98 前橋育英
(結果:ベスト8)

山岳部

- 第56回関東高等学校登山大会(千葉県)
出場

学芸部の活動

物理部

- 全国大会 ICT Challenge+R 2012
自由課題部門
作品「Jump Action Shooting」
エイチーム賞(株式会社エイチーム)
齋藤 雄太(3年)

文芸部

- 関東地区高校生文芸大会(千葉大会)
俳句部門 2年 竹内祥一朗
○第7回群馬県高校生文学賞
散文部門 優秀賞 曾山佳寛
(平成25年度全国総文出場)
文芸誌部門 優秀賞 高博文藝 翠巒第5号
(平成25年度関東地区高校生文芸大会出場)

美術部

- 第36回群馬県高校芸術祭美術工芸部門展
3名 計3点出展

吹奏楽部

- 11月/西部地区アンサンブルコンテスト
木管三重奏・フルート四重奏・クラリネット
四重奏・トロンボーン三重奏 金賞
○12月/県アンサンブルコンテスト
木管三重奏・フルート四重奏 金賞
○1月/西関東アンサンブルコンテスト
木管三重奏・フルート四重奏 銀賞
○3月/第53回定期演奏会
○5月/西部地区ソロコンテスト
関口 健太(アルト・サクソフォン)・
高橋稜央(フルート)金賞
木口 幸祐(バス・トロンボーン)銀賞
○6月/県ソロコンテスト
高橋稜央(フルート)金賞
関口 健太(アルト・サクソフォン)銅賞
○8月/県吹奏楽コンクール
高校A組 銀賞

マンドリン部

- 7月/第45回定期演奏会
(於:群馬音楽センター)
○7月/第42回全国高校ギター・マンドリン
フェスティバル出場(於:大阪府吹田市
文化会館メシアター)
○9月/第8回群馬学生ギター・マンドリン
フェスティバル出場(於:高崎市文化会館)

- 12月/第15回クリスマスコンサート
- 2月/第43回群馬県高等学校ギター・マンドリンコンクール(於:大泉町文化むら)

合唱部

- 《23年度》
- 1月/第5回群馬県声楽アンサンブルコンテスト 銀賞(於:前橋市民文化会館小ホール)
- 《24年度》
- 7月/平成24年度群馬県高等学校芸術祭音楽部門団体演奏会(於:群馬音楽センター)
- 7月/高崎高校合唱部定期演奏会(於:高崎市総合福祉センターたまごホール)
- 7月/第52回群馬県合唱コンクール(於:渋川市民会館・大ホール)
- 8月/第79回NHK全国学校音楽コンクール群馬県コンクール銅賞(於:前橋市民文化会館大ホール)
- 8月/第36回全国高等学校総合文化祭合唱部門(群馬県合同合唱団として参加)(於:高岡市民会館ホール)
- 11月/第18回群馬県高等学校総合文化祭総合開会式アトラクションに参加(於:群馬音楽センター)
- 11月/第18回群馬県高等学校総合文化祭合唱・器楽管弦楽2専門部合同演奏会(群馬県男子高校生合唱団として参加)(於:群馬音楽センター)
- 12月/第15回クリスマスコンサート(於:翠巒会館ホール)
- 1月/第6回群馬県声楽アンサンブルコンテスト(於:前橋市民文化会館小ホール)

和太鼓部

- 4月/第24回たかさきスプリングフェスティバル 市民芸能ステージ参加
- 4月/第5回たかさき春まつり
- 7月/第6回群馬県高校生郷土芸能発表会
- 7月/よいし祇園まつり 依頼演奏
- 7月/八千代町二丁目町内会納涼祭依頼演奏
- 8月/第38回高崎まつり 伝統文化和太鼓部門参加
- 8月/第36回全国高等学校総合文化祭とやま2012県代表出場
- 8月/城南小学校地区納涼祭 依頼演奏
- 9月/第2回富岡市音楽祭2012出演
- 10月/bjリーグ(2012-13)開幕試合アトラクション出演(プロバスケットボール)
- 11月/第26回高崎ふれあいの広場〈高崎市社会福祉協議会〉依頼演奏
- 11月/第18回県高等学校総合文化祭総合開会式アトラクション出演
- 11月/第18回群馬県高等学校総合文化祭郷土芸能専門部大会
- 11月/第26回高崎市農業まつり 依頼演奏
- 3月/第4回定期演奏会(予定)

演劇部

- 4月/安中西毛地区演劇祭 宮口雄太作『山猿高校自由党政権獲得記念党大会』(於:安中市文化センター)
- 9月/平成24年度高校芸術祭演劇部門西毛地区大会 群馬県立高崎高等学校文芸部作『漫才研究部の日常』(於:みかぼみらい館小ホール)

JRC部

- 5月/高崎地区高校生協議会総会参加
- 7月/県高校生リーダーシップTC参加
- 10月/観音山清掃参加
- 11月/高崎地区TC参加 県総合文化祭参加
- 12月/県ワークショップ発表会参加 高崎地区歳末助け合い募金参加

囲碁部

- 4月/第36回全国高校囲碁選手権大会群馬県大会 団体戦 優勝(小澤弘季、北爪裕幸、大槻直史)
- 5月/第36回全国高校囲碁選手権大会群馬県大会 個人戦 優勝(小澤弘季) 第3位(笹口昂紀)
- 7月/第1回群馬県高文連囲碁専門部講習会 指導者:黒瀧正憲(七段)、参加生徒28名
- 7月/第2回群馬県高文連合同囲碁専門部講習会 指導者:小松藤夫(八段)、参加生徒14名
- 7月/群馬県高等学校文化連盟囲碁専門部合同練習会 参加生徒21名、小中学生16名
- 7月/第36回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会 団体戦予選リーグ敗退(小澤弘季、北爪裕幸、大槻直史)、個人戦(小澤)決勝トーナメント1回戦敗退
- 8月/第36回全国高等学校総合文化祭団体戦(北爪裕幸)、個人戦(笹口昂紀)
- 11月/第28回関東地区高等学校囲碁選手権大会群馬県予選会 団体戦 優勝(北爪裕幸、笹口昂紀、平間友樹)
- 12月/群馬県高等学校文化連盟囲碁専門部合同練習会
- 1月/群馬県高等学校文化連盟囲碁専門部合同練習会
- 1月/第28回関東地区高等学校囲碁選手権大会出場 団体戦 (北爪裕幸、笹口昂紀、平間友樹) 個人戦 (北爪裕幸、笹口昂紀)

将棋部

- 第39回群馬県高等学校将棋選手権大会 個人戦 優勝 第36回全国高等学校選手権出場(1年 飯島大)
- 群馬県高等学校竜王戦優勝 第25回全国高等学校将棋竜王戦ベスト8(1年 飯島大)
- 第23回関東地区高等学校文化連盟将棋大会出場(2年 横尾悠人、1年 飯島大、1年 小林俊太)

鉄道研究部

- 8月/第2回全国高等学校鉄道研究交流会(富山) 参加
- 8月/第5回全国高等学校鉄道模型コンテスト(モジュール部門) 第5位
- 9月/上信電鉄鉄道感謝フェア2012 参加
- 11月/第18回群馬県高等学校総合文化祭 参加

新聞部

- 硬式野球部第84回選抜高校野球大会出場 記念新聞「スポタカ」発行
- 「タカタイ」(1108号・2012.3.9発行) センバツ出場「高崎」特集(6・7面)紙面担当
- 第16回全国高校新聞年間紙面審査賞優良賞
- 第26回群馬県高校新聞コンクール知事賞
- 群馬県高校総合文化祭特報新聞「上州若人」取材参加
- 「高崎高校新聞」・「高崎高校新聞翠巒MiniPress」発行
- 定期戦速報「前高合同新聞」発行(県立前橋高校新聞委員会と合同製作)
- 第41回全国高校新聞コンクール優秀賞

放送メディア部

- NHK杯全国高校放送コンテスト県大会ドキュメンタリー部門 最優秀賞
- 県高校放送コンクールビデオ、メッセージ部門 優秀賞

写真部

- 4月/春の合同撮影会参加
- 11月/第29回群馬県高校写真展出品 2年 登坂直紀『應援團』優秀賞(全国大会への出品が決定)『風光 maybe』優良賞(関東大会への出品が決定)



■平成24年度教職員異動に伴う役員人事

副会長 (旧) 金井 尚之 (副校長) 転出 桐生南校長へ
 武藤 正美 (全日制教頭) 転出 富岡高へ
 副会長 (新) 高橋 俊雄 (副校長) 転入 館林校より
 市川 敏美 (全日制教頭) 転入 大間々高より

■同窓会「会員名簿」が発刊される

「会員名簿」が5月に発行となりました。

昨年より消息調査依頼でスタートし、会員の皆様に調査カードを送付、併せて広告掲載のお願い等々多大なご協力、ご高配をいただきありがとうございました。

発行にあたり細心の注意を期したつもりですが、もし誤記にお気づきの場合は恐れ入りますが、同窓会事務局までお知らせいただければ幸いです。原簿を訂正し次回の発行に役立てたいと思います。

「会員名簿」は予約販売で既に予約者には発送済みですが、残部が少々ありますので、購入ご希望の方は同窓会事務局へご連絡下さい。ただし購入の際には本人を証明するものの提示をお願いしますので、ご承知の上でご用意下さい。次回の発行は平成29年です。それまで本同窓会による「会員名簿」の発行予定はありませんので、類似の名簿発行事業の勧誘には十分ご注意下さい。

同窓会事務局 TEL.027-320-6024

第111回高中高高同窓会新年総会のご案内

同窓生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今回の新年総会は、私達82期が担当させていただくこととなりました。心に残る新年総会になることを目標に、諸先輩のご指導、ご助言を仰ぎながら準備を進めております。

懇親会も、楽しい会になるように企画の準備を進めておりますのでご期待ください。

同期の方々、先輩後輩の方々お誘い合わせのうえ一人でも多くの、同窓生の皆様のご出席を心よりお待ちしております。

期日:平成25年1月26日(土) 時間:午後3時より

場所:高崎ビューホテル 会費:5,000円 (当番期82期代表 野口 俊康)

本部より

校歌等CD制作完成・販売

○購入方法

①直接購入【同窓会事務局】高崎市八千代町2-4-1 TEL027-320-6024

【同窓会新年総会・東京同窓会総会・藤岡翠樹会総会】

②現金書留による購入・郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、お申し込み下さい。

③振込み送金による購入・郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、下記口座にお振り込み下さい。

【口座名】 群馬県立高崎高等学校同窓会

【口座番号】 00110-9-17960

●価格 ①の場合1,000円 ②③の場合1,300円 送料共

第19回 同窓会ゴルフ大会結果報告

- 開催日 2012年5月13日(日)
 ■ 開催場所 サンコー72カントリークラブ
 ■ 参加人数 250名 ■ 当番幹事期 75期

○団体戦

《グロスの部》

優勝 66期 338.0
 準優勝 55期 339.0

《ネットの部》

優勝 66期 289.6
 準優勝 71期 289.8

○個人戦

《NETの部》

順位	氏名	期別			GROSS	HDCP	NET
1	黛 欣司	73	53	53	106.0	36.0	70.0
2	堤 康高	71	44	43	87.0	16.8	70.2
3	渡辺 俊裕	81	37	38	75.0	4.8	70.2

《GROSSの部》

順位	氏名	期別			GROSS	コース別
1	吉村 研策	66	40	35	75	赤城妙義
2	江原 功	77	38	40	78	赤城榛名
3	渡辺 俊裕	81	37	38	75	榛名妙義



表彰式での様子

快晴の空の下、大変盛り上がりました。団体戦は、グロス、ネットとも、66期が制しました。皆様、御協力ありがとうございました。



群馬県下高校OBゴルフ対抗戦記

2012年9月吉日 66期 小野里篤雄

2012年9月7日(金)第35回群馬県下高校OBゴルフ対抗戦が行われた。県内の高校30校が7名の戦士を選りすぐり覇を競い合う。我が高高の戦士紹介、キャプテン77期 江原功、以下年齢順66期 小野里篤雄、67期 井上豊、81期 渡辺俊裕、85期 太田部功、90期 反町希一、93期 廣瀬光成、バランスのとれたメンバー7名がここ数年固定で挑んで参りました。結果ベスト10入りは常連となりましたが最高6位止まり、5位迄が表彰の対象です。何とか入賞をと切磋琢磨した甲斐あり、準優勝に輝いたのです。75、75、77、78、79、79、81と上位6名のトータルスコア463ストローク。3位前商463ストローク、同スコア、ここで順位を決するのが7人目のスコアです。高高81、前商84、優勝は前橋育英(20年ぶり2度目)459ストローク、4打差、ここからの4打はきついが不可能でもない。と今なら思えるけれど過去では夢のまた夢。初代キャプテン56期生方先輩、

2代目54期 川倉先輩、3代目66期 小生、4代目68期 後藤君、5代目 現キャプテン77期 江原君、初代から4代目迄はビリ争いか良くても中間位。ベスト10など雲の上。ウッドはパーシモン、ボールは糸巻、選手を揃えるのに苦勞で成績なんて二の次の時代。それでもヘコたれず皆頑張ってきた。繋いで来た。だからこそ今日がある。上位争いが出来る要因として、メンバーの固定もそうだが「エンブレム」の存在である。現キャプテンの提案で高高の校章を模したエンブレムを作って貰った。高高の代表として選ばれた戦士としての「誇り」と「責任感」両方が以前に比べ比較にならない重さがある。

優勝!高崎高校!!エンブレムがひときわ眩しく映る7人の戦士。上毛新聞紙上に躍る日もそう遠くないかも。かつての選手や翠巒体育会及び関係者の人達と喜び祝杯を挙げるべく今日も精進、向上あるのみ。

◆◆◆◆◆人事異動◆◆◆◆◆

(平成24年度)

《退任者・転出者》

事務長 船津 弘繁 退職
 副校長 金井 尚之 桐生南(校長)
 教頭 武藤 正美 富岡(教頭)
 理科 安田 素彦 市立前橋(教頭)
 社会 内田 均 退職
 数学 井坂 奨 太田女子
 数学 手島 直樹 高崎東
 理科 中村 健一 富岡東
 理科 茂木 豊 太田

《新任者》

副校長 高橋 俊雄 館林
 教頭 市川 敏美 大間々
 事務長 青木 勝 前橋工業
 数学 塚越 正隆 藤岡中央
 数学 佐藤 幸弘 高崎東
 理科 小久保博志 太田女子
 理科 東宮 英文 富岡
 理科 長谷川忠史 前橋女子
 理科 中島 康彦 藤岡中央

通信制

《退任者・転出者》

国語 亀島 和彦 退職
 社会 市原 明 退職

《新任者》

社会 浅海 紀子 下仁田
 国語 折原 靖典 地方臨

平成二十四年 褒章・叙勲受章者 (敬称略)

〈平成24年春の褒章〉

瑞宝小綬章 柴山勝太郎(51期)
瑞宝双光章 田中 準造(52期)
瑞宝双光章 木村 善行(59期)

〈平成24年秋の叙勲〉

旭日単光章 賛田 裕行(56期)
瑞宝中綬章 中島 阜介(60期)

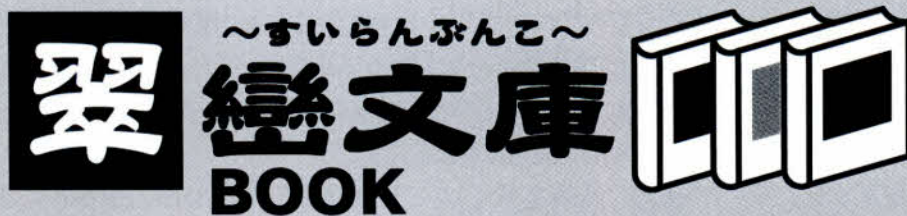
甲子園出場を振り返って

硬式野球部の第84回選抜高校野球大会出場に際し、同窓会長はじめ同窓会の皆さんより寄せられた物心両面からの熱烈なご支援に深く感謝し、心よりお礼を申し上げます。雨による順延となった試合や寒風の中での翌日の試合での校歌と翠巒の大斉唱は選手のみならず、甲子園大会の関係者・視聴者に大きな興奮と感動を与えました。その団結力により応援団優秀賞をいただき、また高崎高校の良き伝統を示すことができました。本当にありがとうございました。

さて、甲子園出場の際のご支援で、硬式野球部の投球練習場を取り壊し、屋内練習場を建設することとなりました。その使用により今後の練習の効率化を図りたいと考えております。

また、甲子園出場を記念して、31年前を模して、記念誌「長き思いⅡ(一冊2,000円)」を制作いたしました。硬式野球部の歩みが簡潔にまとまっております。高崎高校事務室でご購入できますので、ご紹介させていただきます。

硬式野球部部長 關根 秀仁



◆翠巒文庫について◆

翠巒文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈平成23年10月1日～平成24年9月30日〉

●著書／作者

- 表現力を鍛える対話の授業 村田 伸宏(78期)
- 鳩山民主党とその時代 中島 政希(71期)
- 平成の保守主義 中島 政希(71期)
- 憲法から大学の現在を問う 永井 憲一(49期)
- 語り継ぐ人間性と人格の教育 小鮒 智(69期)
- 私の教壇生活と社会活動の足跡 永井 憲一(49期)
- 「GIの値」を知れば糖尿病はよくなる! 田中 照二(52期)
- 胆石・胆のう炎・膵炎の人の食事 田中 照二(52期)
- 臨床栄養のためのGlycemic Index 田中 照二(52期)
- 朝鮮王朝実録 改訂版 朴永圭著 神田 聡
尹淑姫訳(58期)

●著書／作者

- 21世紀中東音楽ジャーナル サラーム海上(84期)
- 祇園の人 雲喜延写真集 雲 喜延(50期)
- 中山道 風雲記 倉賀野秀影の生涯 金井 孝司(54期)
- 本日も完売 商売繁盛物語 大木 紀元(58期)
- 気力が人をつくる 須藤 宜(49期)
- 遷都の陰陽師 武内 涼(95期)
- 遷都の陰陽師 騒乱ノ奈良編 武内 涼(95期)
- 対極悠悠2
楊名時太極拳を楽しむ 中野 完二(54期)
- 古代東国の王者
上毛野氏の研究 改訂増補版 熊倉 浩靖(70期)
- 井上房一朗・人と功績 熊倉 浩靖(70期)

高高同窓会 予算決算報告

平成23年度 通常会計決算

(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

収入の部

費 目	予算額	決算額	増 △減	備 考
前年度からの繰越金	756,472	756,472	0	前年度から繰越金
入 会 金	3,168,000	3,287,800	119,800	全日制322名(@9900) 通信制50名(@2000)
維持会費	6,000,000	5,895,840	△104,160	1838名
利 息	1,528	913	△615	
雑 収 入	74,000	749,106	675,106	校歌CD売上・名簿売上・ 特別会計利息ほか
合 計	10,000,000	10,690,131	690,131	

支出の部

費 目	予算額	決算額	残額	備 考
会 議 費	1,000,000	847,510	152,490	新年総会準備ほか
祝 賀 費	800,000	840,194	△40,194	叙勲記念品・卒業記念品ほか
餞 別 費	300,000	230,000	70,000	22年度末離任職員餞別
慶 弔 費	200,000	48,850	151,150	
通信印刷費	420,000	368,555	51,445	維持会費督促状・納入礼状・ 翠櫛会館電話代ほか
旅 費	100,000	120,000	△20,000	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	2,000,000	1,509,120	490,880	
同窓会報費	1,000,000	1,331,946	△331,946	
事 務 費	1,500,000	1,272,369	227,631	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	200,000	96,550	103,450	賞状・記念品ほか
補 助 費	1,600,000	1,599,877	123	図書館・部活動・翠櫛体育・ ヒューマンサイエンスほか
環境整備費	500,000	220,500	279,500	指月庭およびバラ園の維持管理費
雑 費	300,000	318,240	△18,240	維持会費等の振込手数料ほか
予 備 費	80,000	0	80,000	
合 計	10,000,000	8,803,711	1,196,289	

差引残高 1,886,420円

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	21,304,546円
	平成22年度通常会計より	1,000,000円
	利 息	13,215円
	合 計	22,317,761円
支出の部	学校バス	9,000,000円
	一般会計雑収入へ	61,606円
	差引残高繰越金	13,256,155円

平成24年度 通常会計予算案

(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

収入の部

費 目	今年度予算	前年度予算	増 △減	備 考
前年度からの繰越金	886,420	756,472	129,948	前年度から繰越金
入 会 金	3,168,000	3,168,000	0	全日制320名(@9900)
維持会費	6,000,000	6,000,000	0	
利 息	980	1,528	△548	
雑 収 入	44,600	74,000	△29,400	校歌CD売上ほか
合 計	10,100,000	10,000,000	100,000	

支出の部

費 目	今年度予算	前年度予算	増 △減	備 考
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0	新年総会準備ほか
祝 賀 費	850,000	800,000	50,000	叙勲記念品・卒業記念品ほか
餞 別 費	300,000	300,000	0	23年度末離任職員餞別
慶 弔 費	200,000	200,000	0	
通信印刷費	420,000	420,000	0	維持会費督促状・納入礼状・ 翠櫛会館電話代ほか
旅 費	100,000	100,000	0	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	1,550,000	2,000,000	△450,000	
同窓会報費	1,400,000	1,000,000	400,000	
事 務 費	1,500,000	1,500,000	0	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	200,000	200,000	0	賞状・記念品ほか
補 助 費	1,600,000	1,600,000	0	翠櫛体育会・生徒活動補助
環境整備費	500,000	500,000	0	指月庭およびバラ園の維持管理費
雑 費	300,000	300,000	0	維持会費等の振込手数料ほか
予 備 費	180,000	80,000	100,000	
合 計	10,100,000	10,000,000	100,000	

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	13,256,155円
	平成22年度通常会計より	1,000,000円
	利 息	3,845円
	合 計	14,260,000円
支出の部		0円
	差引残高繰越金	14,260,000円



維持会費の納入について

平成25年度の維持会費の納入をお願いいたします。
納入については、同封の振込取扱票(加入者名—群馬県立高崎高等学校同窓会)もお使いいただけますが、ATMのご利用をお願いいたします。



群馬県立高崎高等学校 同窓会報

発行人:佐藤 和徳

編集委員:田端 穰(54期) 吉永哲郎(54期) 大木紀元(58期)

若山 享(58期) 熊野卓司(66期)

新井重雄(78期) 關根秀仁(82期)

編集
後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第46号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださりまして、まことにありがとうございました。(本部幹事会)

〈維持会費の納入については、なるべくATMをご利用下さい〉